

うしく里山の会 広報誌

さとやま

No. 78

2009年8月号

NPO法人 うしく里山の会

事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
(牛久自然観察の森内)

TEL 029-874-6600 FAX 029-874-6812

E-mail u_satoyama@infoseek.jp

HP <http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/>

親子農業体験の合間に梅の実採りをするこども達

天候不順は農作物の大敵！

じゃがいもは小粒でした

畑の隣の梅の実も数がありません

親子農業体験講座 横山さえ子

じゃがいも作りは今年で六年目になりました。一年目は、そばが終ったあと、次年度の種まきまで放置すると、草だらけの荒地状態になってしまいます。どうしましよと頭を寄せ集め、じゃがいもがいい、それも収穫量を目的するのではなく、せっかく観察の森の畑で作るのだから、いろいろな種類の種を植えたかどうかとの結論になりました。キタアカリ、ホツカイコガネ、メークイン、ワセシロ、アンデス・レッド、パープルを植えました。当時は、ホームセンターに行けば、もっとたくさん種類がありました。現在、パープルなどはみかけるがありません。今植えてあるものは、キタアカリ、メークイン、アンデスレッド、シャドークインの四種類に、「皮」を植えてあります。広報うしくの担当者や参加者に「何ですか？」と不思議がられています。収穫の時、皆に驚いてもらいたいと思っています。

当時から大人も可としましたが、親子を対象に募集をしました。農家の子どもでも、仕事の手伝いをしない、まして都会で育ち、縁あって牛久に住むことになった子どもには土にふれる機会はほとんどありません。農業のほんの入口だけでなく、種を植え、途中土寄せ、草とりなどの世話を迎える収穫はとても嬉しい体験になります。

大きくなって心深くにきざみこまれることでしょう。今年も八組の親子、十四人の子どもたちが参加しています。じゃがいも、里芋、さつまいも、そばの全てを体験する「講座」ですから、森で作業して、プリントを読めば自分でもやれるようにしました。自宅で作って育てていますとのうれしい報告もあります。

じゃがいもは誰でも簡単に作れそうに思いますが、天候不順などで不作だったり、小粒だったりします。「森のじゃがいもは大丈夫？」と聞かれた時は、青々と葉っぱが茂っていたのに、一週間後には茎だけ残して黒くたれ下がってしまったのはビックリしました。隣の自然なんでも探検隊の畑も同様です。中島さんとなげきあいました。農家の人も、今年はずきが良くないといっているそうです。

鬼に大いに笑ってもらって結構、来年は隣りあわせの畑の有機栽培の人たちの、雑草をはやさない方法や、主婦のかたの成功した、10kgの種で二二〇kgの収穫した方法など、勉強することはたくさんあります。土にさわること、体にたまった電磁波などを放電するので健康になるとも言われます。十二月のそば打ちまで子どもたちと元気に楽しく作業をしていきます。



うしく里山の会には

個性豊かなプロジェクトが

たくさん活動しています。

先月はどんなことがあったでしょうか？

それでは紹介しましょう！

プロジェクト 活動報告



アヤマ受託事業報告

坂 弘毅

花柄摘み体験

六月十一日、牛久第二小学校の児童七十名が牛久観光アヤマ園でハナシヨウブの花柄摘み体験をしました。今年のハナシヨウブは前年度の株分けでやや生育不良でしたが、十一日はほぼ満開の状態で、花柄摘みには絶好の状態でした。午後二時、バスで到着した児童は点呼の後、里山の会から注意事項を説明、全員裸足になって圃場に入りました。各々小さなレジ袋を片手に持つておっかなびっくり、「抜き足 差し足 忍び足」といった感じで始めての体験学習のスタートです。

花柄積みは、ハナシヨウブの管理の中でも大変重要な作業で、花が咲いたままにしておくと、そこには種ができて、種を大きくするための栄養分が補給され、株が成長しません。そこで今回、泥に浸かって自然とふれ合いながら社会貢献できるといふ一石二鳥の企画を持って牛久第二小学校にお願いしたのです。

牛久第二小学校は昨年から小さな田んぼで稲作の体験を行っています。田んぼを提供してくれる農家にうしく里山の会がサポートし体験学習を行っています。五月中旬、「牛久第二小学校の田んぼ」に今回と同じ児童が集合、米作りの大切さ、代掻きの必要性を分かりやすく実験で説明し、田植えに入りました。約六十坪の田んぼですから、あつという間に完了です。その泥には慣れた児童でしたが、アヤマ園は、畝の間には水が流れていて、そこにはドジョウやメダカが気持ちよく泳いでいる環境です。その流れに裸足で入ることの不安、そして花柄摘みという初めての体験に児童たちの足はすくんでいました。



花柄摘みを体験する牛久二小の児童たち

坂 弘毅 09.6.11

しかし、一歩踏み込んでみると中々気持ちが良いのでしょうか。圃場の中はいつの間にか七十名の児童で埋め尽くされました。児童が通り過ぎた圃場には小さな足跡が幾つもならび、小さな水たまりができていました。その足跡の深みにはトウキョウダルマガエルがすっぽり浸かって顔を覗かせていました。花柄は次々と摘まれ、あつという間に四十五畝のごみ袋が一杯になる頃、児童の歓声が次第に変わっていききました。その歓声の先は水辺の生きものでした。「ドジョウを捕まえた」「ザリガニを捕まえた」「ウシガエルだ！」「メダカが行列している」等々、僅か一時間ほどの体験でしたが、一人ひとりが思い出に残る体験学習になったのではないかと思います。



自然観察出前講座

平塚 芳雄

出前講座「ホタル観察会」を実施

去る七月十日（金）、十一日（土）の両日、出前講座活動としてホタルの観察会を実施しました。対象者は向台小学校五年の児童とその父母。両日とも天候は問題なく参加者の集まり具合も順調でしたが、果たしてホタルが出てくれるか心配でした。夕暮れ迫る七時三十分頃、藪の中に一つ二つ光が見えた時はこれで子供達をガツカリさせないで済みそうですとホットー安心。

観察地としたこの場所はみどりの団地（南七丁目）から向台小学校への通学路途中にある田んぼ。南側に斜面林があり湧き水で維持されている水田で、二年前までは耕作放棄されていましたが、土地所有者の好意により向台小学校五年生が米作り体験学習の場として春の田植え、秋の稲刈りを行っている所です。我がうしく里山の会としても出前講座活動として石神園長を中心に春の田起こし、環境作りに加え、田植え、稲刈りの指導を行い、初夏のこの時期にはホタル観察会のガイド、安全指導という形で開催に協力している。

当日の出前講座は校長先生の挨拶の後、石神園長によるホタルに関するお話。牛久の先人達の農耕生活と共にこの地のホタルの命が数百年も代々続いてきていること。現在、五年生の皆さんがこの田んぼで米作りをしていることがそれを引き継いでいること。ホタルは完全変態（卵 幼虫 蛹 成虫）の昆虫で環境の変化に密接に関係していることなどを分かり易く解説。ここは夜行性のマムシも生育できる環境なのでホタルに夢中になり過ぎないようにとの注意も。

その後、観察を開始、今年は観察地の田んぼから西側に続く斜面林と耕作放棄水田が荒地化した所に小道を整備し奥の方に数十メートル入れるようにしたが、道が狭いので観察は十数人ずつのグループ毎に交代して行うことに。生息環境の適否によるものがホタルの発生はその奥の方に多かった。

ホタルは比較的捕獲し易く、手にホタルを捕まえた子が何人もおり、顔を近づけてシゲシゲと見入っている子も。その後で先生や園長の教えのとおり藪や空中にそっと放していた。僅か一時間程のことでしたが、子供達それぞれが数十匹のホタルの光を確認できたと思われ、夏の夜の思い出のページになることでしょう。

今回、参加者は二日間で延べ二七〇人は越えたと思われる。うしく里山の会メンバーの応援は石神園長を含め二日間で延べ八十人。



ホタルの環境作りをおこなう

うしく里山の会員のみなさん 坂 弘毅

街路樹

チー△街路樹20受託事業報告

小野 正二

「東京・銀座柳通りほか街路樹」研修見学会

街路樹の知識向上を目的とした第四回研修見学会を七月十二日（日）に実施しました。今回の研修は、東京銀座の中央通りの街路樹散策と霞ヶ関桜田通りのトチノキ並木散策で、参加メンバーは十六名でした。銀座の散策は中央区文化財サポーター協会のポランティアガイドさんをお願いしたので、銀座の歴史・文化遺産の探訪とあわせて楽しい研修見学会となりました。七時三十分牛久駅集合。十時、京橋待ち合わせ後、中央通り（通称銀座通り）を新橋方面へ歩きましたが、歩行者天国のため、大変にぎやかでした。

「銀座といえば柳」と昔から数多くの歌や詩にうたわれ人々に親しまれてきましたが、明治二十年ころ植樹されてから、撤去、復活、焼失して現在の柳は四世ということ。銀座一丁目の銀座柳通りにシダレヤナギが植えられていましたが、現在、銀座通りの柳は東京空襲で焼失して、その後、イチイの木が植えられました。その周りの花壇にはニチニチソウやサルビアなどが咲いていました。

銀座発祥の碑によれば、銀座の名前はこの地に江戸時代の銀貨鑄造所、銀座役所があったことから新両替町、銀座町と呼ばれ、明治二年に銀座となりました。

街路樹の木はマロニエ、ハナミズキ、ヤブツバキ、ケヤキ、ヒトツバタゴ（ナンジャモンジャの木）、トウカエデ、ヒナノキと多くの樹木が植えられており、緑の葉が濃く、鮮やかで、人々の目を楽しませていました。樹名板も大きさ、色、説明文、取り付け方法もいろいろあり大変参考になりました。

銀座八丁目の御門通り角に「銀座の柳二世」の案内看板があり、シダレヤナギが風になびいていました。この木は昭和七年頃に植えられたとのこと。

また、銀座の歴史を聞きながら、和光(服部時計店)、鳩居堂、交詢社ビル、泰明小学校などの建築物や多くの記念碑などをガイドしてもらい大変楽しい時を過ごしました。十二時過ぎ、西銀座でガイドさんと別れましたが、親切丁寧なガイドさんに紙面を借りてお礼いたします。

昼食後、霞ヶ関桜田通りへ。この並木は都内最古のトチノキ並木で、「新街路樹一〇〇選」に選ばれている素晴らしい街路樹で、見上げると大きな実が生っていました。この並木を背景に記念撮影しました。梅雨が明けたような暑い日でしたが、本当に素晴らしい研修の一日でした。



皇居・桜田門にて 増田 勝彦 09.7.12

巨木リサーチ2事業報告 平塚 芳雄

「第一回巨木ガイド」を実施

去る六月七日(日)、巨木リサーチ2の今年度活動、「巨木診断」、「巨木管理」に続く第三弾として、「巨木ガイド」を実施。「巨木ガイド」は私達が調査・測定した市内の巨木を現地を訪ね周辺の環境を含めて紹介する企画で、今年度三回の実施を予定しています。

当日は久しぶりに朝からの晴天で天候に恵まれた活動となりました。参加者は公募一般参加者二十五名(応募者は三十名で締め切ったがその後不参加者発生)、里山の会会員九名、市側から一名の計三十五名。一般参加者は男女ほぼ半々、年齢は五十代の方一名の他は全員六十歳以上で六十代の方が七割を占めました。

当日、午前八時三十分予定の市役所出発が十数分程遅れましたが、その後は比較的順調に事を進めることが出来ました。

案内したコースのスタートは城中町得月院前駐車場のケヤキの木から。此処ではこのケヤキをモデルに私達が行ってきた樹木の測定法を実演し紹介。

その後、二つのグループに別れ、得月院のカヤ、河童の碑のスタジイ、水神塚のスタジイを徒歩で巡り、それぞれの樹木の測定結果や特徴とその周囲の環境(お堂、仏像、五輪塔、石祠等の遺物)を紹介。移動途中、城中町内にある古墳、貝塚及び城跡についても紹介。その後、一旦得月院前駐車場に戻り、トイレ休憩後再びバスで牛久町の八坂神社に。此処ではスタジイとエノキ、歴史的なものとして鳥居、手洗石(チョウズイシ)や康申塔に刻まれた年号等を紹介。更に、バスで東猫六町の八幡神社に、エノキと



得月院のカヤの説明を聞く参加者 渡辺 泰 09.6.7

ケヤキを紹介。参加者に地元在住の方も居り、境内の土俵跡から今も続いている奉納相撲の話や神社に関わる昔話も出て地域における存在意義、歴史を身近に感じることができました。市役所へは予定より早く十二時過ぎに帰着。無事活動を終了。今回の企画は牛久市との協働事業で、参加者の募集、バスの手配、当日の受付等は市側が。里山の会は案内するコースの設定・下調べ、配布資料の作成と当日のガイド役を担い、事前にコース設定のための下見三回、本番に準じた現地地下調べも二回実施しました。

今回の活動には募集定員三十名を超える応募者があったこと、無事に実施できたこと、全員からアンケートの回収が出来、その内容も好意的であったことなど評価できるが、資料準備の不手際、準備不足等反省点もあります。今後、更に準備を整えて次回に臨みたいと考えています。



里山自然観察隊事業報告

坂根 輝一

第二回植物観察会 「湿地の植物観察」

七月十一日(土)、どんよりとした梅雨空の下「湿地の植物観察」をテーマに、第二回植物観察会を実施した。参加者は八名。今回から新たにつくば市在住のAさん、土浦市在住のKさんが加わっての布陣である。

まず下柏田地区の湿地の現況を確認する。湧水が絶えず流れ込み、澄んだ低湿な環境が保たれている。ハリイ・イヌホタルイ・マツバイやコナギ・オモダカ・キクモ・ミスニラ等の湿地特有の植物が繁茂している。

アゼムシロが湿地内に広がっているのは、湿地が乾燥してきている兆候であると云う。湧水の減衰があるのだろうか？ 何年か継続して観察している湿地だけに気がかりな話である。

牛久では湿地といえる場所は少なく、湿地の植物が見られるのは田圃に限定される。だがこの時期、田は稲作の最中で、除草剤の散布により水田内に草は駆逐されていて殆ど生えていない。したがって湿地の植物観察は秋が本番、稲刈りの後に草が陽を浴び成長を遂げる十月まで待たなければならぬ。ということ、今回は秋に観察する田の選定と、この時期の田の様子を見ておこうと言う趣意で小坂・島田・正直・奥原の四地区の観察候補の田を見て回る。膝まで埋まる草の畦道を長靴履きで辿りながらの観察となる。田は水が落され、干され、地割れが見られる状況にある。これは中干しといって穂をつける前に根の充実を図る為に行われる農法の一つだと云う。地区によっては既に中干しの期間が終わ

り、水入れが行われて水が張られた田となっている。湿地の植物としてアシカキやタウコギ・セリ等が僅かに見られる箇所もあるが、概してよく管理されたきれいな田が広がり、見るべきものは少ない。

観察予定外の柏田地区小野川沿いの田に足を伸ばす。この地区の田は水が張られた状態にある。驚いたことに幾つかの田はコナギにびっしり埋め尽くされている。田をコナギが占拠している、と思われる程に密生している。稲はコナギに栄養を取られ、実りは少ないそうだ。この様な様相は除草剤の散布ミスによるものだと云う。散布前までの田の管理や散布時期のズレなどの要因で起こるとの事。

植物の繁殖力の凄まじさをまざまざと眼のあたりにして、かつて農家が戦った「田の草掻き」の労苦にまで思いが及ぶ。



湿地の植物を確認する観察隊メンバー

平塚 芳雄 09.7.11



雑木林応援隊事業報告

飯田 雅俊

ムジナの里で想った事

六月十四日・ムジナの里の整備、早めに行ったので誰も来ていない。右の草地は今年になってから草刈りをしていないので、膝丈の高さになっている草穂がゆれている。たわむれに足を向けてみると草が倒れて座布団が置かれたような状況がところどころに見受けられた。風が草を騒がせていただけであった。毎年この時期に草刈りをしていてたまごを抱えているキジを驚かせてしまっている。今年は今月まで草刈りをしないことに決めた。無事に巣立っていることを考えるとうれしい。

みんなが集まり始めた。前回は雨で流れ、先月は五日曜日まであり、皆さんと一カ月も会っていないかった。毎月二回会っている人とひと月も会わないでいると、どうでしたか、元気でしたか？ 気に留める間柄になってきたのかなーと思う。もう五年も同じ鍋の味噌汁を食べているのである。

観察の森に通いだして八年。牛久に住み始めて十五年が過ぎ、今まで一番長く住んだ場所になった。ほとんどが東京での生活であり、ウサギ追いかの山は私にはなかった。牛久に来て自然との接する機会が増え、観察の森に通い始めて濃いものになった。かの川が見つけられそうになってきて、今になって故郷ができるような気がしてきている。都会では均一な時間が流れていく。休日には家にか買物に行くかで、時間の使い方が違うだけ。牛久に来てからの休日は皆さんと遊んでいるときが多く、時間の密度がゆつたりと希薄のような感じがする。都会は便利で良いかもしれませんが、水と空気はきれいで食べ物も作れる。安全・

安心を考えたら今の生活の方が基本であるとおもう。会の活動に参加するようになって、自然に接する機会が圧倒的に増え心の空間が多く想像力をかきたてる。自然と地域とのつながりができ根をはってきているのかなと思う。母なる大地、我が故郷と言葉があるが、東京の狭い空とアスファルトの上で感じる気持ちではないような気がする。

添付写真にあるとおり、五年もたってしまったが、きれいな雑木林ができてきた。まだまだやることはたくさんあるが、この空間に座っているとポケーとしてしまう。自分を自然と同一であると感じている時代を無理ではあるが今とりもどしている、子供たちに自然と接し自然の中に自分を発見できる場所をたくさん作っていききたいものです。



むじなの雑木林 飯田雅俊 09.7.12



南部の自然を守る会
阿部 幸治

ホタルの「野外ステージ」をきれいにしました
うしく里山の会は、毎年詩七月末「自然観察出前講座」にて牛久市遠山町「つばめ保育園」のホタル観察会を支援しています。

観察ポイントは、当会も参加している「南部の自然を守る会」の田んぼの周辺であるため、十二日（日）に園児のみならずが観察しやすいように道路際の草刈りを実施しました。既にホタルが観察されているとの報告もあり、成虫やサナギになっている水際に注意しながらの作業となりました。参加されたみなさま、とても暑い中での作業ご苦労さまでした。



ほたる観察会会場周辺の清掃 阿部

生き物調査報告

先月六月十九日（金）、田んぼの生き物調査を実施しましたので簡単に結果を報告します。魚はドジョウやヨシノボリ、タナゴなど、カエルはトウキョウダルマガエル、アマガエル、水生昆虫ではアメリカザリガニやイトトンボのヤゴ、ヒメゲンゴロウなど…多くの生き物を観察することができました。

田んぼや水路は、お米の生産の場であると同時に、魚やカエルなど多くの生きものたちの生息場所にもなっていることを、「楽しみながら」学ぶことができました。

フォトコンテスト実行委員会

からのお知らせ！

「うしくの里山フォトコンテスト」開催します！

実行委員会事務局 阿部幸治

本会の定款の目的にもある「自然と人が調和した美しい環境」とはどのような環境なのでしょう？個人や世代によってもイメージする環境は異なると思えます。そこで、会員のみならず広く市民が大切にしたいと思っている里山のイメージ（写真+撮影者の想い）を募集する「うしくの里山フォトコンテスト」を開催することにしました。

取りまとめた写真やその想いは、牛久の里山の環境活動に取り組む活動のきっかけとなるよう市内での作品展や牛久自然観察の森の印刷物などに活用する予定です。

テーマ：あなたが未来に残したい身近な牛久の里山を教えてください。

募集期間：八月一日～九月三十日（二ヶ月間）

詳しくは、別紙チラシをご覧ください

【実行委員を募集します】

（会員対象 先着十名）

実行委員会では、実行委員会で行う一次審査や、その後観察の森来園者が行う一般審査の集計、入賞作品集の作成などを行います。八月から表彰式を行う十一月まで、およそ月一回、楽しみながら作業します。興味のある方は左記までご連絡ください。

実行委員会事務局029-874-6600

（観察の森齊藤まで）

第一回実行委員会は八月十六日（日）



牛久自然観察の森だより

齊藤 孝

森のスケッチコンテストを開催します

子ども達でにぎわう観察の森から、開園二十周年記念行事「おもしろ生き物発見！森のスケッチコンテスト」のご案内です。

対象は小学生までの自然大好きっ子、八つ切り画用紙を使用するスケッチコースと観察の森で配布するぬりえを使用するぬりえコースの二種類です。

応募はひとり一点までで、全員に参加賞があります。また、十月十日から十八日までの間、応募のあった全作品を園内（野外）に展示いたします。

この行事を通じて、森の生きものを観察し発見する喜びや、表現する喜びを感じてもらえたらと思います。また、親子で観察の森に来園していただききっかけにもしていただきたいと思います。

応募用紙は観察の森ネイチャーセンターの受付でもらう事が出来ますので、会員の皆さんもどうぞ周りの子どもたちに勧めてあげてください。

行事の企画立案は、経理でお馴染みの笹谷レンジャーです。何か分からないこと気になる点等ありましたらお問い合わせ下さい。どうぞ宜しくお願いします。

(問い合わせ先) 029-874-6600 担当：笹谷



七月運営委員会からのお知らせ

坂 弘毅

七月十九日運営委員会が開催されました。

・広報委員会から

会報原稿は、各プロジェクト責任を持って出してくださいようお願いいたします。

会報の送付方法が先月より変更になりました。里山の会ホームページで会報が閲覧できますが、各月に折り込みのチラシ等は全ての会員に伝達できるように検討中です。

・六月度理事会決定事項より

里山の会理事による、各プロジェクト活動の見学実施の件、日程が決まりました。

雑木林畑隊（九月一、八、十五の一日）

牛久自然観察隊（九月十二日）

巨木リサーチ（九月二十六日）

雑木林応援隊（十月十一 or 二十五日）

農業体験講座（十月二十四日）

出前講座（十月末）

アヤマ受託事業（十一月内）

以上です。目的は里山の会の全ての活動を理解し把握することにあります。見学となっておりますが、一緒に活動しますのでよろしくお願いいたします。

・その他

うしく・みらい・エコフェスタ参加

八月二十三日（土）昨年同様里山の会のブースを設けます。

今月の古木・希少木 No.28 イヌシデ

カバノキ科クマシデ属の高さ十〜二十mになる落葉高木。名前の由来は花穂の垂れ下がる様子がしめ縄などに使われる紙垂（シデ）に似ているからという説があります。別名はシロシデ、ソネとよばれています。生育地は本州（岩手県・新潟県以南）、四国、九州の山地や丘陵の二次林で、武蔵野の雑木林では特に多く見られます。牛久市内ではシャトーカミヤの庭園と牛久城跡、神社の境内などでわずかに見られる程度で、現在では希少木になっています。

幹は写真のように直立し、樹皮には太くて白い縦筋が目立ちますが、白い部分は古い樹皮に地衣類が着生したものです。葉は互生し、長さ三〜七cmの卵形または卵状長楕円形、先端は尾状に長くとり、ふちは不揃いの細かい重鋸歯があります。花は雌雄同株で、四〜五月開花します。雄花序は黄褐色で長さ四〜五cmで前年枝から垂れ下がります。雌花序は本年枝の先端や短枝の先端に上向きにつくかまたは垂れ下がり、六月ごろ多数の葉状の果苞からなる長さ四〜十二cmの果穂（果実）となります。果苞の基部に付いた堅果は十月ごろに熟します。



イヌシデの樹幹と果穂 09.6.15 (村尾重信)

8月の里山カレンダー

活動日は天候等都合により変更になる場合がありますので、最新情報はホームページでご確認ください。

日	月	火	水	木	金	土
						1 森林総合研究所 9:30展示ルーム
2 巨木リサーチ2(特) 8:30市役所玄関 森林総合研究所 9:30展示ルーム	3 (休園日) アヤマ園(受) 7:00アヤマ園P 森林総合研究所 9:30展示ルーム	4 森の畑 9:30畑 森林総合研究所 9:30展示ルーム	5 森林総合研究所 9:30展示ルーム	6 アヤマ園(受) 7:00アヤマ園P 森林総合研究所 9:30展示ルーム	7 森林総合研究所 9:30展示ルーム	8 里山自然観察隊 9:00森P 親子農業体験講座 9:00畑 森林総合研究所 9:30展示ルーム (会報等原稿不切)
9 雑木林応援隊 9:00ムジナ 森林総合研究所 9:30展示ルーム	10 (休園日) アヤマ園(受) 7:00アヤマ園P 森林総合研究所 9:30展示ルーム	11 森の畑 9:30畑 森林総合研究所 9:30展示ルーム	12 森林総合研究所 9:30展示ルーム	13 アヤマ園(受) 7:00アヤマ園P	14	15
16 運営委員会9:00NC 理事会11:00NC フォトコン実行 委員会13:00NC	17 (休園日) アヤマ園(受) 7:00アヤマ園P 森林総合研究所 9:30展示ルーム	18 森の畑 9:30畑 森林総合研究所 9:30展示ルーム	19 森林総合研究所 9:30展示ルーム	20 アヤマ園(受) 7:00アヤマ園P 森林総合研究所 9:30展示ルーム	21 森林総合研究所 9:30展示ルーム	22 巨木リサーチ2(特) 8:30市役所玄関 チーム'街路樹20(受) 13:00市ボランティアC (交流会) 森林総合研究所 9:30展示ルーム
23 雑木林応援隊 9:00炭小屋 (草木染め一般公開 講座) 森林総合研究所 9:30展示ルーム	24 (休園日) アヤマ園(受) 7:00アヤマ園P 森林総合研究所 9:30展示ルーム	25 森の畑 9:30畑 森林総合研究所 9:30展示ルーム	26 会報発送 13:00NC 森林総合研究所 9:30展示ルーム	27 アヤマ園(受) 7:00アヤマ園P 森林総合研究所 9:30展示ルーム	28 森林総合研究所 9:30展示ルーム	29 親子農業体験講座 9:00畑 森林総合研究所 9:30展示ルーム
30 森林総合研究所 9:30展示ルーム	31 アヤマ園(受) 7:00アヤマ園P 森林総合研究所 9:30展示ルーム					

凡例 森:観察の森, NC:観察の森ネイチャーセンター, P:駐車場, 炭小屋:観察の森駐車場奥の炭小屋, 畑:観察の森駐車場奥の畑, コジユケイ:観察の森内コジユケイの林, 観察舎畑:観察の森内観察舎前の畑, ムジナ:結束町の雑木林(通称ムジナの里), 市役所:牛久市役所本庁舎, アヤマ園:三日月橋観光アヤマ園, (受):受託事業, (特):特別事業, (休園日):観察の森休園日, ボランティアC:牛久市ボランティア市民活動センター

編集後記

関東地方は七月十四日梅雨明けが発表されましたが、その後もすっきりした天気が続きません。二十一日現在、関西方面は梅雨明けがまだのようです。このような天候不順が続きますと、農作物にもかなりの影響があるようです。「親子農業体験講座」のじやがいもも出来が悪いようでした。

ところで、七月二十二日は久しぶりに日本で皆既日食が観られるということで、鹿児島方面には大勢の人が行かれたようです。関東地方では部分日食、皆さんは観ることができましたか。太陽全体が隠れる場合は皆既日食、月の外側に太陽がはみ出して細い光線状に見えることが金環日食といえます。関東地方では二〇一二年に金環日食が、二〇三五年には茨城県でも皆既日食が観られるようです。二〇一二年は勿論のことですが二〇三五年の皆既日食も皆さんで元気に観たいものです。

皆さんにこの会報が届く頃には、早くも八月です。八月一日は八月朔日とも書きます。「ほづみ」とも読みますが、実際には旧暦の八月一日のことで八朔(はつきく・八月朔日の略)といい、朔とは月の黄経が太陽の黄経に等しい時で、太陽暦の一日を表わします。

このころ早稲の穂が実り稲穂を摘んで神様に供えることから「ほづみ」というようです。人の苗字にもあり茨城県のつくば市に多いとのことですが、この他に四月朔日(わたぬき)、六月朔日(うりはり)等の呼び名もあります。

(佐藤 輝雄記)

広報委員会からのお知らせ

次号8月号の発送は8月26日(水)午後1時からです。お手伝いいただける方はネーチャーセンターまでお越しください。よろしく願いいたします。